



写真 2 5 事件現場近くでの変質者注意の張り紙。

(4) 今後、こうした事件を防止するため求められる対策

市街地の環境を中心に、今後、どのような対策を進めることを望んでいるかを住民に求めた(表3-4)。

「警察によるパトロールの強化」を望んでいる住民が最も多く、次いで「弱者が利用する通学・通勤のための安全性を強化した道路の建設(防犯モデル道路式)」、そして「街路灯の増設」「住民による定期的なパトロール」があげられている。

従来では忌避される傾向にあった「住民によるパトロール」を多くの住民が挙げているが、それだけ再度発生するのではないかという不安感が強いこと、自分の子供が被害者になる可能性の在ること等が作用しての結果と見られる。

「公園や道路脇の樹木や雑草の整備や手入れ」は、挙げた者が6名と少なかったが、これは既に実施済みであること、また実際にやってみると思った以上に重労働で困ったこと等が作用して賛同者が少なくなっている。ただし、樹木や雑草の整備や手入れの必要は、調査対象住民の全員が認めている。

表 3 - 4 事件防止のため求められる対策 (MA)

対 策	賛成者数 (人)
公園や道路脇の樹木や雑草の整備や手入れ	6
利用されない公園や道路の閉鎖や整理	2
街路灯の増設 = 暗がりの解消	8
弱者が利用する通学・通勤のための安全性を強化した道路の建設 (防犯モデル道路式)	10
危険あるいは不安箇所への看板等による警告	6
警察によるパトロールの強化	12
住民によるパトロールの強化	8
犯罪被害防止についての子供の教育の徹底	2

(5) こうした事件を防止するため積極的に参加する可能性

上記の様な対策を講じようとした時、自身がそれに参加するか否かの判定を求めた (表 3 - 5)。

全員が「参加する」と述べたが、ただし条件付きの者が多かった。条件付きである限り、地域が一体となって取り組むことは不可能である。そして、こうした問題に対しては、地域が一体であらねば、その十分な対応を展開する不可能である。「誰かが主導してくれれば」という回答に見る様に、犯罪からの安全確保に、住民をリードする様な地域リーダーが求められている。

表 3 - 5 今後も同じ様な事件が起きる不安

	無条件で	自分の賛成したものであれば	誰かが主導してくれれば	その他	合計
回答者数	3 (20.0)	5 (33.3)	5 (33.3)	2 (13.3)	15 (100.0)

3. 調査研究の結果（3）のまとめ

神戸・酒鬼薔薇による連続少女殺傷事件現場を中心に、同地区内に居住し被害少女と同じ女子小学生を通学させている主婦15名に面接法で調査を実施した。

主婦層の間で居住継続意識は低く、同地区を離れたいと考えている者の多いことがうかがえた。このことが、コミュニティ意識や、それに基づく領域感や不審者に対する注視感の低下を産みだし、本事件発生の基礎的な誘因となったのではないかと考察される。

また、同地区において、今後、再度同様な事件が発生するのではないか、と不安に感じているものが極めて多くを占め、何らかの対策を講じる必要の在ることがうかがえる。ただ、住民は、コミュニティ意識の希薄なことに見る様に、自分から積極的に行動する段階にまで至っていない。積極的な防犯リーダーの育成が行政の急務といえる。